

令和5年度「わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業」事業概要(仙北市)

1 市の概要(人口 24,332 人)※令和5年4月1日現在

就学前教育・保育施設数、小学校数(令和5年4月1日現在)

幼稚園	うち、幼稚園型 認定こども園	幼保連携型 認定こども園	保育所	うち、保育所型 認定こども園	地方裁量型 認定こども園	小学校
0 園	0 園	5 園	3 園	0 園	0 園	6 校

その他:事業所内2 家庭的保育事業1

2 教育・保育の現状と課題

市の教育・保育の課題

- (1) 各年齢層での経験にばらつきがあり、保育の中で子どもの内面を読み取ることや、若手への指導に自信が持てずにいることも多い。管理職・中堅保育者の育成や、保育者の質の向上に向けて取り組むことが課題である。また、育児休暇明けの未満児の途中入園希望者や、個別での関りが必要な子が増えてきている現状の中で、人員体制も課題のひとつである。
- (2) 幼小連携に関しては、隣接している学区の中で子ども達を軸にした交流はできているが、保育・授業参観後の協議には至っていない現状にある。子どもの情報共有だけでなく、それぞれの発達段階における子どもの具体的な姿や、小学校へつながる学びについての育ちの協議ができるように教育委員会と連携した相互理解のための体制作りをしていきたい。

3 事業計画の概要(3年間の主な計画)

「幼児教育の推進体制構築事業」を令和元年度から3年間実施し、当市の幼児教育における課題解決と内容充実化を図ってきたが、さらなる事業推進を図る。

社会や保育の変革に対応し、教育・保育の質の向上、教職員の資質向上、園内リーダーの養成等は重要である。そのためには、教育・保育アドバイザーを継続配置することにより、市としての幼児教育推進体制を機能させ、本市の抱える教育課題の解決に向けて一層の指導や支援を行う。

また、当市の教育理念に基づき、未来に向けた人材育成するための教育を目標とした「幼児教育と小学校教育の円滑な接続」を推進し、子どもの育ちと学びの相互理解に向け、教育・保育現場の意見を取り入れた取組の充実を図る。

主な内容(3年間)

- 教育・保育アドバイザーによる園の支援（園内研修、保育実践）
 - ・定期的な訪問による園内研修支援（研修方法、研修内容等への助言）
 - ・保育支援（指導計画作成、保育の振り返り等への助言）
 - ・園、個人からの相談への対応
- 職員の専門性の向上のための研修の充実と地域で学び合う体制づくり
 - ・園や保育者の課題に応じた研修会の実施
 - ・ファシリテーター研修会の実施（園内研修の充実に向けて）
 - ・公開保育、実技研修（地域で学び合う体制作り）
 - ・保育補助者研修会開催
 - ・ミドルリーダーの育成、副園長等の研修（会議）を実施する
 - ・保育士以外の職員向けの研修の実施
- 小学校教育との円滑な接続に向けた研修（取組）の充実
 - ・教育委員会と子育て推進課との連携体制の構築（幼小接続の連携体制の強化）
 - ・教育委員学校訪問に園長等も同行できるように調整を図る（継続）
 - ・学区（園・小学校）の情報交換時に参加
 - ・幼小合同研修会の実施
- 県との連携体制を活用した教育・保育アドバイザーの育成

・県の幼児教育推進協議会、アドバイザー連絡協議会へ参加 ・南教育事務所指導主事や県教育・保育アドバイザー、他市アドバイザーとの相互研修情報共有 ・指導主事及びアドバイザーによる研修会等の情報共有により専門性の向上を図る ・幼小連携に関する研修会（公開研究会を開催） ・園・小学校の指導主事訪問（保育参観・授業参観後の協議に参加）	
年度別重点	
令和4年度	園の課題を明確にしながら指導援助を行い、育みたい資質・能力を視点にした保育実践の支援を目指す。
令和5年度	就学前施設のニーズに応じた支援の実施と小学校との接続に向けた相互理解の取り組みの強化に努める。
令和6年度	育みたい資質能力を視点にスタートカリキュラム、子どもの姿、育ちを協議できる体制の構築に努める。

4 令和5年度の具体

目 的	
令和元年度からの3年間の事業取り組みからステップアップし、下記の3点を目標として取り組む ・幼小接続連携のための小学校訪問同行、幼小合同研修会日程調整等をスムーズに進めるために、教育委員会とのこれまで以上の連携体制強化に取り組む ・小学校のスタートカリキュラム作成を意識した幼小接続連携体制強化 ・副園長がアドバイザー的業務を担えるように、ミドルリーダーとして育成を図る（教育・保育の質と専門性の向上） 県と連携した教育・保育アドバイザーの育成、就学前施設への事業内容周知、及び教育・保育アドバイザーによる園内研修の支援、研修を継続して実施する。 「求められる教育・保育の在り方」を園の課題に沿って検討しながら、現在の取り組み状況を踏まえた検討を重ねる。 （幼小連携の強化） 当市の教育理念「未来に向けた人材育成するための教育」を目標とした「幼児教育と小学校教育との円滑な接続」を推進し、子どもの育ちと学びの相互理解を基盤とした取組の充実を図る。	
実施内容及び実施状況(中間)	
令和元年度からの3年間の事業取り組みからステップアップし、下記の3点を目標として取り組む ・幼小接続連携のための小学校訪問同行、幼小合同研修会日程調整等をスムーズに進めるために、教育委員会とのこれまで以上の連携体制強化に取り組む ・小学校のスタートカリキュラム作成を意識した幼小接続連携体制強化 ・副園長がアドバイザー的業務を担えるようにミドルリーダーとして育成を図る 1 教育・保育アドバイザーによる園の支援 （1）教育・保育アドバイザーによる園の支援（園内研修、保育実践） ◇アドバイザーに関する具体的な目標（仙北市） ・園の良い点、課題を分析し支援につなげる ・定期的な訪問による園内研修支援 ・園内研修支援（研修方法の紹介、保育者への演習、研修内容等への助言） ・園内での公開保育、保育支援（指導計画作成、保育の振り返り等への助言） ・幼児期の終わりまでに育ってほしい「10の姿」、乳幼児期に育みたい資質能力を視点にした保育の振り返りを実践する ・指導計画作成支援、保育者の意図と幼児の遊びから「保育者の援助、環境の構成」を考える	

- ・園、個人からの相談への対応

2 専門性の向上のための研修の充実

(1) 職員の専門性の向上のための研修の充実と地域で学び合う体制づくり

○キャリアステージや課題に応じた研修、キャリアアップ研修の充実

- ・保育補助研修会（実技研修）（同じ内容で2回実施）
- ・ファシリテーター研修会（4回実施）
- ・ミドルリーダーの育成、副園長等の研修（会議）を実施
- ・乳幼児理解研修会
- ・幼児理解研修会
- ・男性保育士等研修会

3 小学校教育との円滑な接続に向けた取り組み

(1) 部局間連携（教育委員会教育総務課・北浦教育文化研究所と子育て推進課）

- ・学区（園・小学校）の情報交換時に参加（地区別幼小連絡会）
- ・学校訪問に同行する
- ・小学校との円滑な接続に向けた合同研修会の開催
（角館こども園：公開研究会を開催、角館小学校を会場に協議）10月11日開催
- ・幼小連携に関する研修会
- ・仙北市で掲げる研究テーマを小・中・就学前教育まで広げ、相互で長期的に実践していく
- ・小学校、園、指導主事訪問（授業参観、保育参観、協議）
- ・小学校（保育体験）

4 県との連携体制を活用した教育・保育アドバイザーの育成

- ・指導主事訪問に同行する

幼保連携型認定こども園 5園 要請訪問（保育園）3園

- ・県の幼児教育推進協議会に参加
- ・アドバイザー連絡協議会へ参加（年5回）
- ・南教育事務所指導主事や県教育・保育アドバイザーとの連携、情報共有
- ・他市アドバイザーとの相互研修、情報共有

(1) 「部局間連携による教育・保育推進体制の充実」

○学校訪問

R5.6月29日(木)	白岩小学校	教育委員会・教育委員 白岩小百合保育園長・5歳児担任 教育・保育アドバイザー
	生保内小学校	教育委員会・教育委員 だしのこ園副園長・保育教諭 教育・保育アドバイザー
	桧木内学校	教育委員会・教育委員 ひのきないこども園長・5歳児担任 教育・保育アドバイザー
R5.7月3日(月)	神代小学校	教育委員会・教育委員 神代こども園副園長・5歳児担任 教育・保育アドバイザー

- R5.7月4日（火） 角館小学校 教育委員会・教育委員
角館こども園長・保育教諭
角館西保育園長・5歳児担任
中川保育園長・5歳児担任
- R5.7月5日（水） 西明寺小学校 教育委員会・教育委員
にこにここども園長・5歳児担任
教育・保育アドバイザー

R5.11月2日（木）仙北市教育研究大会
（会場）仙北市立生保内小学校・仙北市立生保内中学校
園から授業参観・協議に参加

R5.12月20日（水）仙北市教育研究会 評議員会
※仙北市教育研究会研究大会について
「言語活動の充実」を柱に市内全ての小・中学校が研究への方向性を同じくし本大会の授業参観・授業研究を通してテーマに関わる成果と課題を共有しその育成につなげることを目的としているが、そのベースである子どもの育ちを園も一緒に考えていく視点をもつ。

（2）「教育・保育アドバイザーによる園や保育者への充実した支援」

◇令和5年度アドバイザーによる巡回訪問・指導に関する具体的な目標（仙北市）

⑥派遣目標 計 施設／全17施設 169回	
回数	・保育園：公立 3園（42回） ・幼保連携型認定こども園： 私立 5園（101回） ・その他の施設：（事業所内保育施設2か所（0回）、家庭的保育施設1か所（0回） ・小学校：6校（26回）
訪問内容	・園内研修支援（保育改善、テーマ別、研修方法、研修計画）（目標のうち、8園（44回） ・公開保育支援（指導・助言、公開保育研究会の運営・準備）（目標のうち、8園（18回） ・個別相談（保育者の面談及び指導等、園の課題解決対応等）（目標のうち、8園（49回） ・状況把握（保育の状況観察、園長等への聞き取り調査）（目標のうち、8園（41回） ・周知活動（広報紙等での取組経過の伝達、事業内容説明）（目標のうち、11園（21回） ・県と同行（指導方法研修、園の課題共有、指導内容の明確化）（目標のうち、8園（13回） ・幼小接続（幼小接続に関する調査及び事業等）（目標のうち、6校（49回）
理由	・園内研修は事前の準備、当日、事後の振り返りに入り園内研修で深めたいポイントを探るとともに振り返りの時間を保育者達と大事にしていく。 ・保育者等への指導を管理職からの実態把握で園のニーズに合わせて支援を考え、一人一人の保育の質の向上に努める。 ・小学校区の幼小連携の会議にADも出席できるように努めていく。学区ごとの連携の話し合いが子ども姿の情報のみでなく、子どもの育ちの話し合いになるような提示等をしていきたい。 ・仙北市の研修会で学んだ内容が、いかされている良さや課題を吟味し保育者が主体的にやってみたいと思う研修内容を工夫していく。

○園内研修の中での保育公開では、事前の指導案の読み取りが深められてきている。
公開後の話し合いを深めるために、協議のファシリテーターや記録の担当者が指導案を基に公開する保育者に子どもへの援助の仕方や意図している思いを聞き当日の保育を見る視点を探し出している。

○KJ法で協議を進める園が多く、出された付箋を基に子どもに対してどんな手立てを考えるかなどその保育の場面を自分に置き換えて意見を出すことが多くなった。

○学区において保育参観、授業参観への出席が増え幼小の接続に向けての話し合いが多くなった。

●子どもの姿やその時の周りの子ども達の状況など場面を捉えた話題は活発にできるが、保育の中で取った手立てや環境の構成、子どもの育ちや力についてはなかなか話題が出にくい。

(3)「専門性の向上のための研修の充実」

R5.4月21日(金) 保育補助研修会①(実技研修会)

聖園学園短期大学 教授 内藤 裕子 氏

参加者 18名 (保育補助 12名・副園長 4名・栄養士 1名・主任保育士 1名)

＜参加者アンケートから＞

保育補助

- ・身体を動かすイメージは、鬼ごっこやドッジボールと思いがちだが、指先も上半身や下半身も考えながら行うことで普段とは違う動きや運動の仕方ができることを感じた。上手くできなかった事もあったが最終的に上手くできなかったという感想ではなく、とても楽しかった。身体を動かすことっていいなと感じた。このことが「失敗しても大丈夫、そこから笑いが生まれたりする」ということなのだなと思った。

管理職

- ・保育補助の先生がすぐに実技研修で学んだことを実践してくれていた。たくさんの笑い声が聞こえていたのでクラスをのぞいてみると笑顔いっぱいに夢中で遊んでいる子ども達の姿があった。子どもと一緒に保育者も楽しむ姿と研修してきたことをすぐに実践していた姿をうれしく思った。保育者の環境作りをどのように引き出して子どもが笑顔いっぱいの園にできるか、今回の研修でとても感じる事ができたと思う。
 - ・「失敗しないように」「もっと上手に」は、向上するために大切なことだが「失敗しても大丈夫、みんな失敗している」は、なんと心強いのだろうと思った。失敗したことよりも取り組んでいる価値を認め、楽しみながら進んでいこうとする雰囲気を園全体で作っていきたいと思った。
- 早い時期に開催することで、保育補助の人達にも保育に携わる意識を高めることができる感じがした。
- 管理職も一緒に研修会に入ること、あらためて保育の大事な視点を考えたりできていることが成果と思う。
- 同じ職場のチームとして、管理職の立場からいろいろな場面でいろいろな立場の人を認めている意識が高まっていることやすべきことの再確認が必要なことを意識する気持ちが高まっていると捉えることができた。



＜持っているのは誰？みんなが真剣な顔＞

R5.5月11日(木) ファシリテーター研修会①

講師 秋田県教育庁南教育事務所 指導主事 石山 潤 氏

参加者 (14名)

＜参加者レポートから＞

- ・園内研修：KJ法で進める場合事前の準備をしておくことが大切だと学んだ。指導計画について担任と意見交換をし、より具体的な考えや意図を聞くことで当日の保育のポイントが見えてくることが分かった。

- ・参加者の学びを深めるために協議をまとめるだけでなく、協議中にたくさんの意見を引き出せるような質問をしていくことが大事である。意見が広がったり深まったりする質問を身に付けられるよう実践を積んでいきたい。

○前日まで指導案の検討会をすること、当日出された付箋のポイントをしばる、参加者から意見を引き出すための質問を考える等事前に準備をしておくことで、園内研修に向かう不安が緩和されることを実感できたようである。

- 協議を進めていくと付箋の説明が長くなり最後まで聞くべきか、途中で切り上げてもいいのか、悩む。多様な意見が出ると協議のゴールが分からなくなってしまうように進めたらいいか分からなくなってしまう悩みが見えた。

△これまでは園内研修リーダーを中心に研修会を開催していたが、今年度はファシリテーター研修会を受けたことがない保育者を中心に進めた。

参加者は、話し合いの視点をどこにおくか、保育者の思いを引き出すことの難しさを感じていたが、園内でも実践を積み重ね、振り返りを通して協議の深まりの検証をしていくことが大事なことで改めて感じる事ができたようである。

学んだことを園内で実践できるようにしていきたい。



＜要点をまとめて伝える意識を持つ＞

R5.5月17日（水）乳児保育研修会①

講師 秋田県教育庁幼保推進課 幼保指導員 阿部 真理 氏

参加者 21名（園 15名、保健課 6名）

＜参加者：アンケートから＞

保育者

- ・記録の書き方について：4つの段階を区別して書いていくことで子どもの育ちを捉えて保育につなげていくことができることを学ぶことができた。

今回学んだ記録の書き方を保育や指導計画にいかしていきたいと思う。

- ・自分の記録を見直すと、子どもが何を学んだり経験したりしているかの記述がないことに気付いた。そこで何を経験し学んでいるのかを読み取って記述していくことが大事であり、記録の仕方を工夫していきたいと思った。

保健師

- ・保育者さんがどのような研修を受けて日々の業務にあたっているか知ることができて勉強になった。日常を言語化（計画や報告）する難しさはどこも同じと改めて思った。PDCAサイクルをまわすための視点の持ち方等保健課の業務にもいかせるお話だった。

○0歳児から2歳児保育のキーワードは、担任達にとってクラス運営や4月の子どもの姿と重なり、日々の保育を振り返る大きな手立てとなったようだ。未満児の保育は、個別の育ちの捉えが大事とわかっていても“みんなで一緒”に捉われてしまったり安全面から制限したりすることも多くなるという悩みが見えた。

一人一人の伸びようとする力をどのように捉えて保育者の関わりを考えていくか、大事な視点を保育者と明確にしながらアドバイスしていくことを心掛けていきたいと思った。

- 動画を見取る演習：子どもの姿は書くことができるが、その姿から何を経験しているか、学んでいること（子どもの内面理解）を書きとめることに時間を要し、育ちを読み取る3つの視点に分類することがなかなかできなかった。子どもの姿を事実として書きとめ、乳児保育に係るねらい及び内容、発達3つの視点を意識することが大事なことで再確認することができた。

△初めての試みとして、行政機関の連携を考え保健課に研修会への参加を声掛けした。

保育者の資質向上には直に結び付かないことかもしれないが情報を共有しながら子どもの発達を見ることは、保健師からの視点も入り前進できるように思った。



＜動画から子どもの姿、経験していることを見取る＞

R5.5月19日（金）ファシリテーター研修会②

講師 秋田県教育庁南教育事務所 指導主事 石山 潤 氏

参加者（13名）

＜参加者：レポートから＞

- ・指導案を見て「ねらい」と「子どもの姿」はつながっているか「環境や援助」は今の保育に合っているか、どんなことを大切にしているかなどをポイントに読んでいくことを意識していきたいと思った。
- ・違う見方があるからこそ参加者の学びがある。多様な考えを認めて進めていくことがファシリテーターの役割でとても大切なことだと感じた。
- 指導案の読み取りは、保育者の援助や環境の構成等足りなさを指摘するのではなく、保育の意図を確認したり、当日の保育への意識を高めたりすることが大事であることを確認できた。
- 参加者の意見を引き出すために付箋への質問を考えておくことが大事であると学んでも、実際どんなことを質問したらいいのか、具体的な質問がなかなか浮かばず難しいと感じていた参加者が多かった。

△付箋の振り分けやポイントを絞ることに慣れていないせいか、指定された時間になかなかまとめることができずにいる姿があった。

保育公開の時期や学年によっても話し合いが同じように進むことはないので、ファシリテーターとの振り返りの中で子ども達への援助や育ちを予想することも大事であることを確認していきたい。

また、参加した職員達が自分だったどうするかなど、それぞれの考えをたくさん出し合えるようにアドバイザーの関わりを考えていきたいと思う。



＜出された付箋を振り分ける＞

話し合いのポイントをしぼる

R5.5月26日（金）乳児保育研修会②

講師 秋田県教育庁幼保推進課 幼保指導員 阿部 真理 氏

参加者 19名（園長5名、副園長8名、保育士等6名）

＜参加者：アンケートから＞

- ・動画からの見取りで、身体的発達、経験していること等の育ちの見取りが弱いと感じた。
- ・〇か月頃の発達はこうである！と当たり前に思い過ぎて、その子ども今の発達として見取れていない、KKOで保育していたのかなと深く反省した。動画での見取りはとても勉強になった。
- ・前回の研修者が記録したものを読み取って自分の思いや気付いてほしいこと等を書き込んでいく演習から学んだことがとても大きく自分の文章力やプロセスを重視した分析力のスキルをもっと高めていかなければならないという思いになった。

子どもにも、保護者にも、現場の保育者にも“こんな姿に” “こうなってほしい”という願いと共に「理解と励まし」の気持ちを忘れずに持ちながら自分の立場での関りをもっていきいたいと思った。

同じ立場でグループを作り演習していくスタイルにとっても新鮮さを感じた。

- 同じ市内の園長同士が同じ場面を見て語り合うことは初めてだった。園長という職務でありながら子どもの姿の読み取りという部分で保育者と同じような悩みがあり、とてもいい機会であったという声が多く聞かれた。園長、副園長、保育士等のグループ分けは、研修会の企画がいかにされたと思う。

- 管理職になるとなかなか幼児理解等の研修会への参加がないことを実感した。

時代の流れの中で情報を常にキャッチしていくことが大事なことを捉えながら仙北市の研修会が園に反映されていくことを考えていきたい。

- 指導案から読み取れることに園長達はどんどん言葉を出して進めていたが、副園長やリーダーのグループではなかなか話が進まないことが見えた。

子どもが何を体験しているのか、遊びを通して育っていることの意味付けが弱い面が見えた。

講師の助言から気付くことも多く、どんなところに視点を置いて見取ることが大事なかを改めて考えさせられた。



＜読み取った指導案に
どんな助言をしたらいい？＞

R5.5月30日（火）仙北市保育研修会（男性）

- 公開を控えている保育者の指導案の読み取りから「ねらい」の立て方の難しさ、評価の観点の捉え方が話題になったが、今子どもたちの実態を捉えたうえで保育者の願いを明確にしていくことが大事なことであり共有することができた。

△指導案の書いた部分を否定するのではなく、この場面はどんなふうに進めるの？と問いかけてくれることで保育者が意識していなかったことが明確になるという良さが参加者に伝わり、次の公開保育に向けて指導案の検討会を開催することに進んだ。

R5.6月14日（水）仙北市保育研修会（他園に学ぶ）

思いっきり遊ぶ子どもを求めて

～育ちを捉えた振り返りを通して自分らしさを発揮するための保育者の関わりを探る～

仙北市立白岩小百合保育園 主任保育士 千葉貴美子氏

保育者に学ぼう（実技の講師・参加保育者）：歌遊び、手遊び、絵本の紹介、制作等

参加者 16名（副園長4名・保育者12名）

- 鹿角市で行われた研究協議会に参加できなかった職員が、白岩小百合保育園の実践発表を聞くことができたことが有意義な研修になった。県の指導講評を聞くこともできたので、令和5年度（大・仙・美の発表園）や来年度（県の発表園）に関しても取り組みのポイントや資料作りの参考になったと思われる。

- 園内研修の取り組みや子ども理解、職員間の情報共有等、自園でできる前向きな考えにつながったと思われる。

- 実技の講師になった保育者は、他園の保育者の前で導入の話をしたり実践したりすることに緊張したようだが子どもの前で声のトーンや雰囲気作り、教材の与え方等改めて考える機会になったようだ。

- 事前確認や準備はしたが、途中マイクが入らずマイク無しで行った。アクシデントが起きた時

の対処を考える必要があった。

R5.6月21日（水）仙北市保育研修会

仙北市子ども家庭総合支援拠点について

～そだれん・あいのうのそれぞれの内容を理解し、親子への効果を知る～

仙北市子育て推進課 家庭援護係 主査 千葉 暁子 氏
家庭相談員 藤原 絵美 氏

参加者 15 名（副園長 4 名・保育者 12 名）

＜参加者：アンケートから＞

・ペアレントトレーニングは、子どもへの気付きとともに子育てへのヒントやコツを具体的に分かりやすく学ぶことができとてもよい取り組みだと思った。現在は支援を必要とする子の保護者が主な対象だと思うが子育てをしていくうえで全ての保護者の方々に役立つと思うので学べる機会があればいいと思った。

○子どもの好ましくない行動やしている行為に目が行きがちになるが、その姿をどのように判断し、的確な言葉掛けをしていくか、保育の場面にも通じるところがたくさんあり具体的に考える場になった。

○いろいろな保護者や多様な家庭環境があることから、園としてどこまで支援したらいいのかという悩みも多かったが、行政との情報共有や連携機関をつなげていくことが子どもの育ちを保障していくということを知る機会になったと思う。

●仙北市子ども家庭総合支援拠点の役割や業務が、園側に理解できていない面があることが明確になった。



△「支援を必要としている子、支援を必要としている保護者」等に対して園全体で情報共有が正確にできているだろうか。を考えさせられた。個人情報になるので難しい取り扱いにはなるが、必要とする関係機関とつながるような配慮を課全体でも考えていきたい。

R5.7月14日（金）仙北市保育研修会

「子どもをみるとは…」～保育の中で大切にしたいこと～

講師 聖園学園短期大学 教授 蛭田 一美 氏

参加者 16 名（保育士・保育教諭 15 名・子育て推進課 1 名）

＜参加者アンケートから＞

・泣いている子どもがいるとどうしたら泣きやむかを考えて接していたが、泣くというのは心が痛いことから回復していくのに大切な行動であることを教えていただき心にゆとりができた。無理に泣きやませようとしたりせずにそばに寄り添い安心できるように関わっていききたいと思った。

・子ども理解のために「見ることが大事！」見るときに何を感じているか、何でその動きをしたのか等様々考えることがあり、立ち止まって見る、考えることでより深く子どもを知る手立てに繋がっていくことを学ぶことができた。

○参加者の経験年数を 1～4 年にしたことで、同じような視点で子どものことを考えたり、共有できたりすることが多いと感じた。

（年齢層や経験別での研修会も企画として考えていきたい。）

○大雨の対策に伴い保健課からの参加ができず残念であった。保健師の方から残念であり研修の機会があったら参加したいという感想を聞くことができた。



＜横目で子どもを見る。どんな気持ちになる？＞

R5.7月26日（水） 副園長研修会

参加者 副園長10名（欠席 2名）

＜参加者：アンケートから＞

- ・副園長の役割についての演習では、普段自分が感じている悩みや課題、手ごたえや充実感等自ら言葉に表してみることで日々忙しさの中でじっくり向き合うことができない思いに改めて気づくことができた。生の声を出し合っの演習は、とても充実した研修になった。

○副園長同士での話し合いを聞いたり悩みを出しあったりすることから実態把握に務めたが、シフト作りや調査物の提出、行事の話し合いや園内研修等、副園長の業務の多さが見え、副園長同士で何を最優先していくべきかを明確にできた。

◇ファシリテーター研修の内容を取り入れながら進めたが、仙北市の研修会で学んだことを共有できるように伝えていくことで園内でも広がりがあることを実感できた。

時間配分に余裕を持たせるともっと話し合いが深まったように思う。研修方法を考えながら工夫していきたいと思った。

R5.9月12日（火）仙北市保育研修会（男性）インフルエンザ感染者が園内で多くなり中止。

R5.10月3日（火）ファシリテーター研修会③

講師 教育・保育アドバイザー 佐々木 真貴子

＜参加者レポートから＞

- ・指導案の読み取りでは、実際に質問してみることで担任の意図している部分や思い、子どもやクラスの姿等をより深く知ることができた。また、研修に参加している保育者の質問を聞き、質問のポイントなど自分では気づかないところがたくさんあり、指導計画を読み解く学びになった。
- ・指導計画だけを見て実際の話し合いをすることは難しかったが、当日のイメージがわきすごく貴重な時間と感じた。
- ・子どもの姿が見える指導計画、意図したことを書き出す環境構成、一人一人の子どもを大切にする保育者の援助を書くことで保育を参観する人達に伝わることを改めて感じた。「子どもに対してこれはどのように？」と自分に問い掛けながら作成することでより深く意味あるものになると学び今後指導計画を作成する時に意識して取り組んでいきたい。

＜公開保育5歳児担任から＞

自分達が作成した指導案を基に参加者の先生達から質問されたことで、当日の手立てが確かなものとして捉えることができたり、新たに気づかされたりすることが多くあった。自分が具体的に書いたつもりでも読んだ先生が保育者の意図を理解できずにいる箇所もあり、意図を説明する中で相手に伝わるように作成していく工夫が必要と感じた。

R6.1月15日（月）保育補助研修会②（実技研修会）

聖園学園短期大学 教授 内藤 裕子 氏

参加者 23名（保育補助15名・園長2名・副園長3名・主任保育士・保育教諭3名）

＜参加者のアンケートから＞

- ・手をたたいたり足踏みしたり、何も準備がいない楽しいゲーム。ルールは年齢に応じて変えてもいい。役立つことが満載の研修会だった。
- ・「失敗するからおもしろい」と講師の先生が何度も言っていた言葉。子ども達と一緒に感じられたらいいなと思った。難しいかなとか、子どもにヒットしなかったらどうしようとかあまり考えないで保育にどんどん取りいれていきたいと思った。

○「間違ふからおもしろい！間違ってもいい」講師の言葉が参加者に強く響いたようだ。できることが当たり前ではなく、できるまでの過程で間違っても楽しい、みんなで笑うことができる

からまたやってみようと思う気持ちが湧いてくる体験はとても大事なことで実感できた。

R6.1月17日（水）角館地区3園 園長、副園長研修会

講師 子育て推進課 主査 浅利 美智子 氏

参加者（6名）

- 身近な話し合いではあったが「研修会」と名前をあげることで気持ちが引き締められたような気がする。管理職は園運営のために保育者の質の向上だけに目を向けるだけでなく、事務的な業務も入るため行政からの確認やアドバイスは貴重と思えた。今後は、年度初め時期に開催していくことを検討したい。

R6.1月25日（木）ファシリテーター研修会④

講師 秋田県教育庁南教育事務所 指導主事 石山 潤 氏

参加者 18名

- 合同研修会で保育参観後の協議を進めた（ファシリテーター、記録者）の実践を基に反省を出し合い、次年度の園内研修につなげる手立てを中心に研修会を進めた。
ファシリテーター研修会で学んだことを園でファシリテーターや記録者として回数を重ね、合同研修会に臨んだという声もあった。自分の役割に責任を持っている気持ちと「学んだことを実践している」といううれしい声を聞くことができた。
- 「話し合いを深めるためには？」という質問も出て、保育に真摯に向き合っている保育者の熱意を感じた。
講師からは、悩んでいることに対する的確なキーワードと、園内研修を高めたいという保育者の意欲につながる助言があり、それを基に研修の振り返りとして園訪問を通しながらアドバイザーが見守っていくことも大事にしていきたいと思った。

R6.2月26日（月）だしのこ園研修会

講師 秋田県教育庁南教育事務所 指導主事 石山 潤 氏

大・仙・美保育実践発表

研究テーマ「粘り強くやり遂げようとする子どもを目指して」

～積み重ねよう読み取り・記録・語り合い～

だしのこ園主査保育教諭

今野 郁絵氏

参加者 23名（他園 14名、だしのこ園 9名）

＜参加者アンケートから＞

- ・研究を通してだしのこ園の保育者一人一人の意識の高さを感じた。また、保育のスキルアップにつながっていることやチーム力が高まっていることがわかり自園でも真似てみたい、真似るべきと感じる点が多くあった。
- ・D メモ、だしのこマインドマップなどだしのこ園ならではのネーミングを取り入れることで職員全体がより親しみやすく気軽に記録できる雰囲気づくりにもつながっていたと感じた。
記録を通してより子どもの姿を読み取ることでまさしく「記録がいきる週案」へとつながっていると感じた。

（４）「小学校教育との円滑な接続に向けた研修等の充実」

＜地区別幼小連絡会＞

R5.4月20日（木） 仙北市立神代小学校・神代こども園

子どもの様子、情報交換

育てたい姿について

R5.5月16日（月） 仙北市立西明寺小学校・にこにここども園

授業参観・保育参観・年間計画（交流）について等

R5.6月9日（金） 生保内小学校・はなさき仙北だしのこ園
経営説明（校長、園長）
情報交換・年間計画について・日程調整等

R6.2月27日（火） 仙北市立西明寺小学校・にこにここども園
1年間の振り返り、子どもの情報交換

R6.2月28日（水） 仙北市立神代小学校・神代こども園
1年間の振り返り、子どもの情報交換
スタートカリキュラムについて

R6.2月29日（木） 仙北市立松木内小学校・放課後児童クラブ・ひのきないこども園
子どもの情報交換

R6.2月29日（木） 仙北市立角館小学校・角館こども園
子どもの情報交換

R6.3月8日（金） 仙北市立白岩小学校・白岩小百合保育園
子どもの情報交換
交流の振り返り、次年度に向けて

R5.10月11日（水）仙北市合同研修会

講師 秋田県教育庁南教育事務所 指導主事 石山 潤 氏

公開保育 はなさき仙北幼保連携型認定こども園角館こども園（5歳児）
協議会場 仙北市立角館小学校

参加者 81名（園 39名 小学校 32名 行政、教育関係者 9名）

＜参加者：小学校から＞

- ・「ねらいに向かった保育になっていました」と言い切ることでできるすばらしい保育だった。それは1日でできるものではなく、日々の活動によって学習が積み重なったものと思う。すばらしいです。子ども達の話聞く姿に感動した。
- ・子ども達の主体的に遊びに向かう姿から保育者の綿密な計画や工夫の数々を感じることができた。課題解決のための話し合いが自然と輪になって行われていたことである。友達の発言を目と体を向け心で聞く姿。子ども達の思いや考えを認め、受け止めて価値づける先生方の姿。当たり前のように、いつも同じような話し合いが行われているのだと思った。園で育った力を小学校でより伸ばせるようなカリキュラムの工夫が大事なのだと改めて感じた。

＜協議：園から＞

- ・同じ保育参観をしても園側は子どもの育ち、内面、環境の構成、保育者の援助などどのようにつながっているかに視点があつた。小学校側では、ひとつひとつの時間配分やどこをねらってどのように進めているか、そのための関わりはどのようにしているかを見ていた。視点は違っても話し合うことでひとつの見方が変わってきたので学ぶことが大きかった。違いを考えていくことで、保育のステップアップにつながり、小学校へつながっていく力をみんなで考えることができると思った。

○学区ごとに授業参観、保育参観は行われているが、午後の協議に参加することがなかなか定着していないため公開保育を通して子どもの姿を話し合うことを重点として開催した。

協議の中で、園と小学校の参加者が、遊びの中で育てている子ども達の力にお互い気づくことができたことが大きな成果であった。

△子どもの姿を園と小学校で捉え、子どもの育ちの話し合いをしていく場の提供やきっかけ作りの工夫を検討していきたい。

- 今後、幼小の連携を教育員会とどのように進めていくかは大きな課題である。
また、合同研修会は小学校が参加しやすい時期を考えて秋休みに行ったが、公開する園側では行事が多い時期などの悩みもあり開催日や内容などを検討していきたい。

<小学校指導主事計画訪問>

R5.9月11日(月) 桧木内小学校 1年(国語)
秋田県教育庁南教育事務所仙北出張所 指導主事 栗津 明子 氏
R5.11月17日(金) 角館小学校 2年(生活科)
秋田県教育庁南教育事務所仙北出張所 指導主事 物部 長秀 氏
R5.11月28日(火) 西明寺小学校 1年(算数)
仙北市教育員会北浦教育文化研究所 指導主事 武藤 洋史 氏

○教科ごとに単元計画の作成に沿って授業が進められていくことや、実際の授業参観から教師の手立てを探っていく協議などを理解することができた。小学校や園との相互理解につながるように授業参観や協議に参加できるような機会をつくっていききたいと思った。

- ・仙北市子ども家庭総合拠点(教育委員会・保健課・子育て推進課・市内園)

<就学前児童に関する支援機関連携会議>

- ① R5.4月27日(木)
- ② R5.4月28日(金)
- ③ R5.7月13日(木) 勉強会 講話 仙北市社会福祉課 草薨 拓也 氏
- ④ R5.10月16日(月) 勉強会 講話 仙北市子育て推進課 相澤 克彦 氏
- ⑤ R6.2月13日(火)
- ⑥ R6.2月14日(水)

<どれみの会>・仙北市で行う月2回の就学前児童の療育訓練事業である(親子一緒に参加)

通年 講師 宮川 貴子 氏
R5(5/12.5/31.6/9.7/5.7/28.8/10.8/23.9/7.10/6.10/23.11/8.11/22.12/7)
R6(1/10.1/24.2/8.2/22)
年3回(音楽療法) 講師 日沼 郁子 氏
R5(6/21.9/22.12/14)

○アドバイザーが活動に取り組む親子の様子を園に伝えたり、カンファレンスの記録を渡したりすることで子どもの様子を知ることができると園には講評であった。

- アドバイザーの園訪問と重なり、訓練にはなかなか参加できないこともあった。
また、記録の作成に合わせて園の訪問にあたるため日にちが経ってしまうこともあった。

<令和5年度教育専門監等の派遣による巡回相談>

秋田県立大曲支援学校 教育専門監 大川 康弘 氏
秋田県立大曲支援せんぼく校 教諭 佐々木 奈織 氏
仙北市教育委員会北浦教育文化研究所 総合学習アドバイザー 小林 千春 氏
R5.6月30日(金) はなさき仙北にこここども園
R5.7月6日(木) はなさき仙北 だしのこ園
R5.7月11日(火) はなさき仙北ひのきないこども園
R5.8月3日(木) はなさき仙北 角館こども園
R5.11月10日(金) はなさき仙北ひのきないこども園

△専門監から、子ども一人一人への助言をいただいたので、園でできることに加えてアドバイザーとして保育の中で悩むことを聞いてあげたり対応に悩んだりした時は、関連機関との連携を考えたりしていくようにしていきたい。

指導主事訪問に同行する

要請訪問

R5.5月31日（水）だしのこ園

R5.6月13日（火）角館こども園

要請訪問

R5.8月2日（水）中川保育園 他園4名

R5.10月17日（火）白岩小百合保育園 他園6名

R5.10月26日（木）角館西保育園 他園7名

幼保連携型認定こども園訪問

R5.7月4日（火）ひのきないこども園 小学校2名（校長・教頭）管理職2名協議参加

R5.9月21日（木）角館こども園 他園7名

R5.10月18日（水）にこにここども園 他園6名 小学校1名

R5.10月20日（金）だしのこ園 他園7名

R5.10月25日（水）神代こども園 他園5名 小学校2名 協議参加

○指導主事に同行できることは、具体的な園の課題を見いだせると共にアドバイザーのスキルアップにもつながっている。

（5）「県との連携体制の充実」

R5.4月26日（水）令和5年度園長等運営管理協議会Ⅰ

R5.6月16日（金）幼稚園・保育所・認定こども園新規採用者研修Ⅲ

R5.7月27日（木）就学前・小学校等南地区合同研修会

R5.8月9日（水）幼稚園・保育所・認定こども園中堅教諭等資質向上研修Ⅲ

令和5年度 教育・保育アドバイザー連絡協議会

R5.4月24日（月）

R5.6月23日（金）

R5.8月24日（木）

R5.10月24日（火）

市アドバイザーに学ぶ研修会

R5.9月28日（木）横手市 社会福祉法人 育童会 樽見保育園

R5.11月7日（火）能代市 能代市湊城幼稚園・ていじょう保育園

○他市の取り組みの良さを実際に見ることができることは、大変貴重な時間だと思う。

○アドバイザー達で保育を参観し「遊び」について協議したが、そこには必ず子どもの姿、環境の構成、保育者の援助に結びついていくことを実感した。

アドバイザー達が自分とは違った、視点で保育を見ていることも大変参考になった。

5 わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業(令和5年度)の成果と課題

<保育の資質向上に向けて>

○仙北市研修会で学んだ内容を保育や園内研修に活かそうという意識が強くなっている。

他の保育者の保育を見て協議で話し合うことで自分の保育を見直す機会につながっている。

○保育公開や園内での協議にアドバイザーも一緒に参加している。

公開前の指導案の読み取りでは「ねらい」から子どもの姿、保育者の援助、環境の構成などを保育者に質問して聞き出している。質問によって、指導案を書いた保育者は意識していなかったことが見えてきたり、もっと具体的に書いたりすることで保育のイメージが明確になってくることが実感できているようだ。また、参加する保育者も保育のポイントをしばって参観できることが多くなった。

- 指導計画の作成に結びつくように、遊びの中での子どもの姿や育ちを週案の裏面等を使ってメモに残す等、各園で工夫している面が見られる。しかし園によっては「自由に記述していい」ということも多く、単に子どもの姿を書き込んでいることが多かった。

その場面で保育者がとった手立てや声かけなどを書き込むことで次週の保育を考えることにつながることもあると思う。記録をどのように週案につなげていくかをアドバイザーからも提案できるように考えていきたいと思う。

- 園の管理職が指導計画を見て、日々の保育と重ね合わせて声をかけていくような体制を推進しながら保育者の良い面を認めてあげることや保育者の自信に繋がっていくような言葉かけをしていく支援を継続していくように努めたい。

<仙北市の研修会について>

- 研修会に参加した職員が「こんな研修をやってみたい」という声を直に届けてくれるようになり、保育者達と一緒に作っていく研修会を目指すことで参加意識も高くなっていくと感じている。

管理職も仙北市の研修会でいろいろな職員と参加することで、大事にしなければならないことを再確認できているという声を大事に受け止めたいと思う。

- 研修会は、キャリアアップがメインになりがちである。

研修の内容から、この保育者を参加させたいと思ってもキャリアアップの単位不足から参加を考える。処遇改善につながることから参加を決めるなど園の事情もあり、研修内容の工夫が求められることを受け止めていきたい。

△研修の参加者を園に限らず、行政機関や教育、連携機関に広げることでみんなが子どもを多面的に語ることができるかもしれないことを念頭におき工夫していきたい。

<幼小の連携について>

- 双方の指導主事訪問では、保育参観、授業参観だけでなく協議への参加意識が強くなってきた。

学区で子どもの育ちについて話し合うことが大事なことであるという意識が高くなっているので、今、行っていることを評価しながら次年度につなげていきたい。